

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	舞台機構調整		英文名	Stage Structure I				1-1
担当者	渡辺 悟		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 講義
開講期	通年	前期： 4 時間 (回数：15 回)		後期： 4 時間 (回数：15 回)			授業時数	120 時間
教材 教具	プロ音響データブック（5訂版）/舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 2級/舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 3級/プリント							
担当者の 実務経験	音響及びホール管理							
<p>【学修内容】 科目のねらい（目的）</p> <p>「舞台機構調整技能士検定」に向けた音響理論を基礎から学ぶ。また「要素試験（ヒヤリング）」の対策として、楽器音の聞き分け、音質の違いの聞き分け、ミックスバランスの違いの聞き分け等の訓練を行う。年度終了時には舞台機構技能士二級レベルの知識を身につける。</p>								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1	舞台機構調整技能士試験の概要 技能検定の意義と取り組みについて 判断：楽器の種類とグループについて			1	舞台機構調整技能士二級試験の概要 取り組みについて 判断：楽器判別①			
2	令和3年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：金管楽器の仕組みと音について			2	平成30年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：楽器判別②			
3	令和2年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：木管楽器の仕組みと音について			3	平成29年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：楽器判別③民族楽器等も含めより幅広く知る。			
4	平成31年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：擦弦楽器の仕組みと音について			4	平成28年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：周波数の違いを聞き分ける。			
5	平成30年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：鍵盤楽器の仕組みと音について			5	平成27年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：バレエやミュージカル等の曲を聞き分ける。			
6	平成29年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：打楽器の仕組みと音について			6	平成26年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：音質の変化を聞き分ける①			
7	平成28・27年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：和楽器の種類と音について			7	平成25年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：音質の変化を聞き分ける②			
8	平成26・25年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：音量の違いと感覚について①			8	平成24年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：過去の問題から模擬。音響の基礎知識についてより深く学ぶ。			
9	平成24・23年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：音量の違いと感覚について②			9	平成23年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：音質の変化を聞き分ける③			
10	平成22・21年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：音質の違いと感覚について①			10	平成22年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：音質の変化を聞き分ける④			
11	平成20・19年度舞台機構調整技能士3級学科過去問題と解説 判断：音質の違いについて②低音・中音・高音			11	平成21年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：過去の問題から模擬			
12	令和3年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：音質の違いについて③歪み・ピッチの変化など			12	平成20年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：特に重要項目である楽器判別と音質についてさらに訓練する。			
13	令和2年度舞台機構調整技能2級学科過去問題と解説 判断：ヒヤリングの模擬試験の実施			13	平成19年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説 判断：過去問に沿った模擬			
14	令和元年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説			14	平成18年度舞台機構調整技能士2級学科過去問題と解説			
15	前期まとめ / 前期末試験			15	後期まとめ / 学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)	授業は講義形式で行う。要素に関しては音と映像の流せる環境において行う。実際に音を聞きながら、判別できる能力をもてるように、繰り返し問題を解いていく。							
到達目標	前期は3級合格、後期は2級合格レベルとする。また舞台・音響・照明の現場で活用できる基礎知識を身につける。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	「判断等試験（ヒヤリング）」においては日ごろから如何にいろいろな音を聞いているのかが理解に大きく関わるのでいろいろなジャンルの曲を聞いて欲しい。							
履修に当たっての留意点	3級不合格となった学生は2級の受験資格がないが、2級合格に向けて、受験者と同じ内容を学ぶ。							

科目名	電気理論		英文名	Electrical Theory					1-2
担当者	秋山 俊朗		実務経験の有無	有	選択必修	必須	科目区分	専門科目講義	
開講期	前期	前期：8時間（回数：15回）		後期：時間（回数：回）			授業時数	120時間	
教材 教具	ポイントスタディ方式による第二種電気工事士筆記試験受験テキスト、 第二種電気工事士筆記試験模範解答集、第二種電気工事士技能試験候補問題の解説								
担当者の実務 経験	電設資材卸販売会社（営業）3年5ヶ月、電気工事会社（施工及び施工管理）3年7ヶ月 県立工業高等学校（電気科教諭）33年								
【学修内容】科目のねらい（目的） 第二種電気工事士の筆記試験と技能試験に合格する為に必要な基礎知識を習得する。									
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）					
1	〔電気理論〕 オームの法則、電気抵抗の計算、抵抗の分流と分圧			1					
2	〔電気理論〕 単相交流回路、位相差と力率、電力の計算、三相交流回路			2					
3	〔配電理論〕 配電方式、配電線の電圧降下、分岐回路の施設			3					
4	〔配線設計〕 需要と負荷、電線の許容電流、過電流遮断器、分岐回路			4					
5	〔電気機器〕 三相誘導電動機、変圧器と計器用変成器、照明器具とスイッチ			5					
6	〔配線材料〕 開閉器・点滅器・接続器、絶縁電線、ケーブル・コード			6					
7	〔工具・材料〕 電気工事用工具、金属管・合成樹脂管・PF管工事用材料			7					
8	前期中間試験、〔施工法〕 施設場所と工事種別、電線の接続法			8					
9	〔検査〕 検査方法、絶縁抵抗・接地抵抗・電力・力率の測定			9					
10	〔法令〕 電気工事士法、電気事業法、電気設備技術基準、電気用品安全法			10					
11	〔配線図〕 屋内配線図記号、単線図と複線図、材料等選別			11					
12	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			12					
13	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			13					
14	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			14					
15	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説 / 前期期末試験			15					
授業方法 (授業の進め方)	第二種電気工事士筆記試験の受験対策として、各テキストを用いて講義形式で学習を進める。また、過去問題の答練と解説を行う。								
到達目標	第二種電気工事士(下期)の筆記試験に合格する。								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修	学習内容が非常に多いので、次の項目については自宅学習を積極的に行うこと。 各種回路の計算。図記号・鑑別・法令で定められた数値等の記憶。過去問題の答練。								
履修に当たっての留意点	電気工事士筆記試験の合格を目指して、学習に積極的に取り組むこと。 欠席しないようにし、授業態度にも十分気を付けること。								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	音響理論	英文名	Acoustic theory				1-3
担当者	関 和正		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分 専門科目 講義
開講期	通年	前期：2時間（回数：15回）	後期：2時間（回数：15回）			授業時数	60時間
教材 教具	Powerpoint で使用した図面と解説のプリント 舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 2級/ 舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 3級/						
担当者の 実務経験	1988年～2021年 ラジオ(ラジオたんぱ、FMくらしき)技術職 2000年～現在 テレビ(西日本放送)技術職						
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） 学生が、音の周波数を習得することによって音質変化を感じ取り、音質補正の方法と音響機器の操作方法を学び、「舞台機構調整技能士検定」に向けた音響理論を基礎から身につける。 基本的な音とは何かを再認識してもらう。							
<b>【授業計画】</b> コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	授業説明 音響理論 周波数について	1	マイクの種類と特性	2	アコースティックギターのマイク位置による音質変化	3	音響機構調整法 音響の基礎知識（2級）
2	音の伝わり方 音の速度・屈折について①	3	音源の基礎知識（2級）	4	音響機器の種類、構造、機能及び用途（2級）	5	ミキサー卓への機器接続手順
3	音の伝わり方 音の速度・屈折について②	4	ミキシング技術及びデザイン（2級）	6	舞台の種類、舞台設備の種類、機能及び用途	7	電源設備及び電気計器の種類及び使用方法（2級）
4	音の演出 音の発生から減衰まで	5	電気 電気工学及び電子工学の基礎理論（2級）①	8	電気 電気工学及び電子工学の基礎理論（2級）②	9	デジタル変調、CD、DVD、BDの構造と説明①
5	周波数からみたバランスの良い音とは	6	デジタル変調、CD、DVD、BDの構造と説明②	10	後期復習	11	後期復習
6	ダイナミックレンジとは	7	後期復習	12	後期復習	12	後期復習
7	イコライザーの役割と操作方法	8	後期復習	13	後期復習	13	後期復習
8	リバーブ、ディレイの役割と操作方法	9	後期復習	14	後期復習	14	後期復習
9	コンプレッサー、マルチコンプレッサーの役割と操作方法	10	後期復習	15	後期復習	15	後期復習
10	催物の種類、劇場の種類について	11	後期復習				
11	バランス伝送の必要性	12	後期復習				
12	インピーダンスとインピーダンスマッチングの説明①	13	後期復習				
13	DTMF信号、音階オクターブ、ソルフェジオ周波数の説明	14	後期復習				
14	前期復習	15	後期復習				
15	前期期末試験						
授業方法 (授業の進め方)	前期では、授業の始めは音の周波数のヒアリングを行う。 主な放送・音響機器の役割と選択について説明していく。 電気電子工学の知識を取り入れながら、音響機器の仕組みなどを理解していく。 後期終盤では、過去の仕事現場における失敗事例、トラブル回避事例などを取り入れ、 学生が音響機器トラブルの対処方法を考える。						
到達目標	試聴によって音の周波数を覚え、分類ができること。 音響機器を操作して音質補正を行うことができること。 舞台機構に纏わる音響の基本的な知識・技能を養う。						
成績評価の 方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	自宅学習による音の周波数の習得に心掛ける。						
履修に当たって の留意点							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ポストプロダクション・著作権	英文名	Post-production・copyright				2-1
担当者	源 文彰	実務経験の有無	有	選択 必修	必修	科目 区分	専門科目 講義
開講期	通年	前期：2時間（回数：15回）	後期：4時間（回数：7.5回）	授業時数	60時間		
教材 教具	JPPA 映像音響処理技術者資格認定試験 試験問題集 2024年度版、 ビジネス著作権検定®公式テキスト[初級・上級] 第3版、プリント						
担当者の実務 経験	映像制作会社にて撮影、編集業務及びディレクター						
【学修内容】科目のねらい（目的） 映像音響業界に必要な映像編集及び著作権について理解する。 映像音響処理技術者認定試験、ビジネス著作権検定の取得を目的とする。							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）	1	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	2	ビジネス著作権検定対策（映画の著作物）	3	ビジネス著作権検定対策（制限）
2	映像音響処理技術者認定試験対策（技術）	2	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	4	ビジネス著作権検定対策（保護期間）	5	ビジネス著作権検定対策（譲渡）
3	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）	3	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	6	ビジネス著作権検定対策（著作物の利用）	7	ビジネス著作権検定対策（著作隣接権）
4	映像音響処理技術者認定試験対策（映像）	4	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	8	学年末試験	9	
5	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）	5	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	10		11	
6	映像音響処理技術者認定試験対策（音響）	6	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	12		12	
7	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）	7	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	13		13	
8	映像音響処理技術者認定試験対策（デジタルメディア）	8	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	14		14	
9	映像音響処理技術者認定試験対策（著作権）	9	ビジネス著作権検定対策（権利の種類）	15		15	
10	ビジネス著作権検定対策（目的・定義）						
11	ビジネス著作権検定対策（著作物の種類）						
12	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）						
13	ビジネス著作権検定対策（著作者人格権）						
14	ビジネス著作権検定対策（著作財産権）						
15	ビジネス著作権検定対策（著作財産権） / 前期期末試験						
授業方法 (授業の進め方)	授業は映像音響処理技術者認定試験問題集（前期）とビジネス著作権検定（後期）を中心に、過去問題等を多く取り入れながら行う。						
到達目標	各検定試験に合格すること。						
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	・自宅学習による予習、復習を心がける。 ・映像音響処理技術者本試験前に直前対策として、試験前日（6/1）に模擬試験をする。						
履修に当たっての留意点							



科目名	検定対策Ⅱ		英文名	Measure against official approvalⅡ				2-2
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	通年	前期：8時間（回数：15回）	後期：8時間（回数：15回）		授業時数	240時間		
教材 教具	舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士2級、各種過去問題プリント、実習服、ストップウォッチ							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） 舞台機構調整技能士2級受験レベルの知識と技術習得を目指す。 前期：2級試験レベルで理解すべき、機材理解、音の流れ、システムを理解する。 後期：音量やバランスなど、技術と芸術の両面を養う。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）			
1	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）導入			1	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）マイキングについて			
2	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）使用機材を学ぶ			2	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）フェーダーとつまみ位置			
3	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）使用機材を学ぶ			3	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）声とCDでのチェック			
4	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）音の流れを知る			4	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）モニター用サウンドチェック			
5	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）手順の試験			5	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）リバーブチェック			
6	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）時間管理			6	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）マイクアレンジ			
7	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）時間管理の試験			7	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）音作り			
8	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）総合評価			8	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）音作り			
9	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）総合評価			9	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）音作り			
10	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業） トラブルシューティング			10	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業） トラブルシューティング			
11	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）通し練習			11	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			
12	舞台機構調整技能士2級対策（学科・判断・作業）確認試験			12	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			
13	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			13	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			
14	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			14	舞台機構調整技能士2級対策：様々な会場でのオペレート実習			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）	作業、判断、学科をローテーションしながら総合的に学ぶ。 実技を行わない場合は学科及び判断対策を行う。 筆記試験の対策では、繰り返し問題を解いて力を付けていく。							
到達目標	それぞれの検定に向け、的確な知識と技術の習得を目指す。 前期：舞台機構調整技能士2級に求められる、基礎知識を得る。 後期：舞台機構調整技能士2級受験レベルの技術を身に付け、音を聞きわける力を養う。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	過去問題の予習と復習や実技試験における動きの確認、判断等試験に向けて耳を養うトレーニングなど、繰り返し行う。							
履修に当たっての留意点	随時、実技試験を実施する。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	インターンシップ		英文名	Internship				1-5																																																																																																
担当者	源・難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習																																																																																																
開講期	通年	前期：4時間（回数：15回）	後期：4時間（回数：15回）		授業時数	120時間																																																																																																		
教材 教具	皮手袋、実習服、筆記用具																																																																																																							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） インターンシップを通して、職業の理解や必要とされる知識・技術を学び、深める。 外部機関との連携により、実務的な研修を行う。																																																																																																								
<b>【授業計画】</b> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">コマシラバス（前期）</th> <th colspan="3">コマシラバス（後期）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ホール見学(岡山シンフォニーホール)</td> <td></td> <td>1</td> <td>岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>↓</td> <td></td> <td>2</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> <td>3</td> <td>岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> <td>4</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> <td>5</td> <td>岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン撤収</td> <td></td> <td>6</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> <td>7</td> <td>岡山シンフォニーインターン レセプション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 準備</td> <td></td> <td>8</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> <td>9</td> <td>映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収</td> <td></td> <td>10</td> <td>↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>安全講習(フルハーネス・高所作業講習)</td> <td></td> <td>11</td> <td>映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>↓</td> <td></td> <td>12</td> <td>↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>↓</td> <td></td> <td>13</td> <td>ホール見学(総社市民会館)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>↓</td> <td></td> <td>14</td> <td>↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>↓</td> <td></td> <td>15</td> <td>↓</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									コマシラバス（前期）			コマシラバス（後期）			1	ホール見学(岡山シンフォニーホール)		1	岡山シンフォニーインターン 準備		2	↓		2	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		3	岡山シンフォニーインターン 準備		3	岡山シンフォニーインターン 撤収		4	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		4	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収		5	岡山シンフォニーインターン 撤収		5	岡山シンフォニーインターン 準備		6	↓ 岡山シンフォニーインターン撤収		6	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		7	岡山シンフォニーインターン 準備		7	岡山シンフォニーインターン レセプション		8	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		8	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収		9	岡山シンフォニーインターン 撤収		9	映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）		10	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収		10	↓		11	安全講習(フルハーネス・高所作業講習)		11	映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）		12	↓		12	↓		13	↓		13	ホール見学(総社市民会館)		14	↓		14	↓		15	↓		15	↓	
コマシラバス（前期）			コマシラバス（後期）																																																																																																					
1	ホール見学(岡山シンフォニーホール)		1	岡山シンフォニーインターン 準備																																																																																																				
2	↓		2	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備																																																																																																				
3	岡山シンフォニーインターン 準備		3	岡山シンフォニーインターン 撤収																																																																																																				
4	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		4	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収																																																																																																				
5	岡山シンフォニーインターン 撤収		5	岡山シンフォニーインターン 準備																																																																																																				
6	↓ 岡山シンフォニーインターン撤収		6	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備																																																																																																				
7	岡山シンフォニーインターン 準備		7	岡山シンフォニーインターン レセプション																																																																																																				
8	↓ 岡山シンフォニーインターン 準備		8	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収																																																																																																				
9	岡山シンフォニーインターン 撤収		9	映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）																																																																																																				
10	↓ 岡山シンフォニーインターン 撤収		10	↓																																																																																																				
11	安全講習(フルハーネス・高所作業講習)		11	映像・音響・照明現場研修（各企業にて研修 準備から片付けまで）																																																																																																				
12	↓		12	↓																																																																																																				
13	↓		13	ホール見学(総社市民会館)																																																																																																				
14	↓		14	↓																																																																																																				
15	↓		15	↓																																																																																																				
授業方法 (授業の進め方)	外部機関との連携により、舞台に関する知識・技術・安全教育の講習や 実地研修などを行う。																																																																																																							
到達目標	舞台の裏方の仕事を体験し、また実際に芸術に触れることで、職業意識を高める。 舞台機構調整技能士など資格取得に向け、実際に体験を通して深く学ぶ。																																																																																																							
成績評価の 方法と基準	・研修態度 ・出席 ・積極性 ・身だしなみ 以上4項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。																																																																																																							
授業時間以外に 必要な学修	基本的なコミュニケーション能力及びマナー教育																																																																																																							
履修に当たって の留意点	外部機関との協力によって成り立っている授業であるため、しっかりした意識を持ち、 研修にのぞむ。 日常的に遅刻・欠席（体調不良含む）が多い者は、研修に参加できない場合がある。																																																																																																							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習 I		英文名	General exercises I				1-6
担当者	源、難波、横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	後期	前期	時間(回数)	後期：4時間(回数：15回)			授業時数	60時間
教材 教具	実習服・皮手袋・筆記用具							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） 一般照明を中心に照明機材の基礎知識を身に付ける。 音響で使用される各機材の基礎知識から、システム構築の基礎など PA の基本を身につける。 基本となるカメラの知識から撮影までの基礎を身につける。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1				1	初めての動画制作			
2				2	映像用語とその役割			
3				3	映像実習（カメラ、三脚の基礎）			
4				4	映像実習（撮影基礎）			
5				5	映像実習（撮影 実践）			
6				6	照明実習（照明機材の名称と役割・備品の使い方）			
7				7	照明実習（ベース・ハンガーの取付け、吊りこみ作業の実践）			
8				8	照明実習（ベース・ハンガーの取付け、吊りこみ作業の実践）			
9				9	照明実習（回路取り）			
10				10	照明実習（パッチとシュート）			
11				11	照明実習（仕込み図に沿った実践）			
12				12	音響実習（機材理解※名称と特徴や役割） / 仕込図の見方について学ぶ			
13				13	音響実習（ステージまわりの仕込みについて）			
14				14	音響実習（ミキサーまわりの仕込みについて）			
15				15	確認試験：映像・音響・照明 複合実習			
授業方法 (授業の進め方)		授業では、講義と実習を合わせて行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。						
到達目標		映像・音響・照明の基礎知識を確実に身に付け、インターンシップやアルバイトの現場で積極的に動く力を養うことを目指す。						
成績評価の方法と基準		・確認試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修								
履修に当たっての留意点								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	総合演習Ⅱ		英文名	General exercises II				2-3	
担当者	非常勤：大塚 仁己/ 上田 和輝 外部講師：宮脇 成也 常勤：難波、横内		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目演習	
開講期	前期	前期：10時間（回数：15回）		後期： 回)	時間（回数：		授業時数	150時間	
教材 教具	PC、プリント、筆記用具								
担当者の 実務 経験	大塚仁己：舞台照明 / 上田和輝：スチールカメラマン / 宮脇成也：デザイン								
【学修内容】 科目のねらい（目的） 一般照明の基礎と LED ライト・ムービングライトの知識や技術を幅広く身につける。 また、デザインや静止画（写真）について学び、作品制作の幅を広げる。 業界関連企業による業界研究セミナーを通じて、業界の現状に触れ、将来へのビジョンを高める。									
【授業計画】 コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）				
1	照明実習 一般照明とDMXについて / 特別講義 業界関連企業によるセミナー			1	/				
2	照明実習 LED 照明の仕組みと基本 / 特別講義 業界関連企業によるセミナー			2					
3	照明実習 LED 照明実習 / 特別講義 業界関連企業によるセミナー			3					
4	照明実習ムービングの仕組みと基本/ 特別講義 業界関連企業によるセミナー			4					
5	照明実習 ムービングライト実習 / 特別講義 業界関連企業によるセミナー			5					
6	写真実習 一眼レフカメラの基本			6					
7	写真実習 カメラの基礎知識を実践で学ぶ			7					
8	写真実習 校外で撮影実習			8					
9	写真実習 スタジオで撮影実習			9					
10	写真実習 撮影画像の加工と復習			10					
11	デザイン レタリング、ロゴマーク			11					
12	デザイン フォント、色彩			12					
13	デザイン 構図について学ぶ			13					
14	デザイン 構図について学ぶ			14					
15	デザイン 試写(プレゼンテーション)			15					
授業方法 (授業の進め方)	座学と実習を行い、現場で即戦力となるように知識・技術を学ぶ。								
到達目標	照明分野では LED ライト・ムービングライトについて学び、現場により即した知識の習得を目指す。 デザイン、写真分野では、作品制作を行う上で欠かせない、デザインに関する知識を身につけ幅を広げることを目指す。								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。								
授業時間以外に必要な学修	様々な作品や芸術に触れる機会を、なるべく多くもつ。								
履修に当たっての留意点									

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	照明		英文名	Lighting				1-7
担当者	野田 幸夫		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 演習
開講期	後期	前期： 時間（回数： 回）	後期：4 時間（回数：15 回）				授業時数	60 時間
教材 教具	実習服、皮手袋、 舞台・テレビジョン照明<基礎編>（2021改訂版） "舞台・テレビジョン照明技術者(2級)（改訂版）技能認定試験問題集" 舞台音響技能検定 過去問題ナビゲーション 舞台機構調整技能士 2級							
担当者の実務経験	野田幸夫：広告代理店、舞台照明							
【学修内容】科目のねらい（目的） 一般照明を中心に舞台と照明の基礎を身につける。								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1				1	照明座学及び演習（舞台機構と照明設備）			
2				2	照明座学及び演習（舞台における照明の仕事）			
3				3	照明座学及び演習（照明機器）			
4				4	照明座学及び演習（照明操作のシステム）			
5				5	照明座学及び演習（照明に関する用語）			
6				6	照明座学及び演習（舞台・美術に関する用語）			
7				7	照明座学及び演習（公演・演出に関する用語）			
8				8	照明実習（西川アイプラザ）舞台と照明備品の説明			
9				9	照明実習（西川アイプラザ）回路取りから点灯まで			
10				10	照明座学及び演習（復習）			
11				11	照明座学 光とカラーフィルター			
12				12	照明座学 照明操作のシステム			
13				13	照明実習（西川アイプラザ）シーリングの仕込みとシュート			
14				14	照明実習（西川アイプラザ）サスの仕込みとシュート			
15				15	舞台用語と確認問題の実施 / 学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）	授業では、講義と確認実習を行い、講義を受けた後に実践をすることで確実に知識と技術を身につけていく。							
到達目標	照明の基礎知識が確実に身に付き、舞台や映像の現場で活用することができること。 現場の講師の技術に触れ、幅広い知識や技術を身に付けるとともに感性を養う。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	・ホール見学など校外研修に向けた予習・復習。 ・提示された課題に沿ったイベントの舞台プランの作成。							
履修に当たっての留意点	授業中の私語や居眠り、実習服の着用や言葉遣い、授業に取り組む積極的な姿勢があるかどうかなどの平素の行動も評価する。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	DTM		英文名	Desk Top Music				2-4
担当者	難波 篤史		実務経験の有無	有	選択必修	必須	科目区分	専門科目 実習
開講期	前期	前期： 4時間（回数：15回）	後期：	時間（回数：	回）	授業時数	60時間	
教材 教具	パソコン、ソフト“Cubase”、ヘッドフォン、マウス、プリント							
【学修内容】 科目のねらい（目的） DTMソフトを通じてレコーディングの理解を深めると共に、ハードに触れる機会が少ない学生にとってバーチャル空間でのミキシング技術、エフェクター類の理解、また打ち込みによる楽器への理解を深めることを目的とする。								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1	DTMの概要及びソフト画面の見方と説明							
2	初級ミックスダウン①ミックスダウンとは何かを学ぶ ～16トラックの素材をミックスする～							
3	初級ミックスダウン②ミックスの基礎フェーダー操作を学ぶ ～フェーダーバランスをとる。方向性を練る～							
4	初級ミックスダウン③様々なエフェクターについて学ぶ ～好きなグループで鳴るようにコンプをかける～							
5	初級ミックスダウン④ミックスダウン後のマスターリングを学ぶ ～パン・リバーブ・ディレイをかけ、トータルコンプで仕上げる～							
6	初級MIDIデータの打ち込み①～MIDIとは何かを知る～							
7	初級MIDIデータの打ち込み②～楽譜の読み方、音楽の基礎知識～							
8	初級MIDIデータの打ち込み③～楽譜に沿ってMIDIを打ち込む～							
9	打ち込んだ曲のミックスダウン①							
10	打ち込んだ曲のミックスダウン②							
11	各々の選曲でヒアリング問題を制作する①～音質変化～							
12	各々の選曲でヒアリング問題を制作する②～ノイズ・エフェクト～							
13	各々の選曲でヒアリング問題を制作する③～ミックスバランス①～							
14	各々の選曲でヒアリング問題を制作する③～ミックスバランス②～							
15	授業のまとめ及び定期考査試験							
授業方法 (授業の進め方)	パソコンを使い実際に打ち込み・レコーディング・ミックスダウンを進めていく。 学生にはプロジェクターとプリントにより解説をする。							
到達目標	音源の加工、編集、マスターリング、MIDI、基礎的な音楽理論の理解が出来るようになる。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	様々なジャンルの曲を聞いて、どの様にミックスをされているのかを自分なりに考えることがミキシング上達の必須項目となるため、自主的に音楽に触れる機会を持つこと。							
履修に当たっての留意点								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	フォトショップ	英文名	Photoshop				2-5
担当者	平石 明香	実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	通年	前期：2時間(回数：15回)	後期：2時間(回数：15回)	授業時数	60時間		
教材 教具	ソフト“Photoshop”、パソコン、 基礎からしっかり学べる Photoshop 最強の教科書 CC 対応 Windows&Mac						
担当者の実務経験	ソフトウェア開発会社でSE、PG。独立後ソフトウェア開発やWebサイトの作成、講師など。						
【学修内容】科目のねらい(目的) 画像編集ソフト“Photoshop”の基礎操作を身に付け、写真の編集やデザイン作成に挑戦し、 ブライダル関係や広告関連業での就職活動に役立つ力を養う。							
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)			
1	オリエンテーション	1	フィルター	2	フィルター	3	色とデザインの基本
2	基本操作、ウィンドウとパネル操作	2	フィルター	4	色とデザインの基本	5	DM スケッチ
3	選択範囲の作成と操作	3	色とデザインの基本	6	DM 制作	7	DM 制作
4	選択範囲の作成と操作	4	色とデザインの基本	8	DM 制作	9	DM 制作、制作作品の発表と投票
5	選択範囲の作成と操作	5	DM スケッチ	10	作品紹介カード作成	11	作品紹介カード作成
6	確認テスト+レイヤー操作	6	DM 制作	12	作品紹介カード作成	12	作品紹介カード作成
7	レイヤー操作	7	DM 制作	13	作品紹介カード作成	13	作品紹介カード作成
8	レイヤー操作	8	DM 制作	14	作品紹介カード作成と提出	14	作品紹介カード作成と提出
9	レイヤー操作レイヤー操作	9	DM 制作、制作作品の発表と投票	15	前期後期復習	15	前期後期復習
10	テキスト、シェイプレイヤー	10	作品紹介カード作成				
11	テキスト、シェイプレイヤー	11	作品紹介カード作成				
12	確認テスト+カラーの設定、描画、レタッチ	12	作品紹介カード作成				
13	カラーの設定、描画、レタッチ	13	作品紹介カード作成				
14	カラーの設定、描画、レタッチ	14	作品紹介カード作成と提出				
15	前期復習(課題)	15	前期後期復習				
授業方法 (授業の進め方)	データで配布された素材を元に、各自がPC上で実際に作業を行い進めていく。						
到達目標	CGソフトの基本操作を学び、写真や画像の編集ができるようになることを目標とする。卒業制作のDMと作品紹介カードのデザインをする。						
成績評価の方法と基準	・課題提出(授業中に作成したものを含む)：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に必要な学修	授業以外での作品制作が必要な場合もある。						
履修に当たっての留意点							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集 I		英文名	Editing I				1-8
担当者	浅沼 範行		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	通年	前期： 2時間（回数：15回）	後期 2 時間（回数：15回）				授業時数	60 時間
教材 教具	一気にビギナー卒業！ 動画でわかる After Effects 教室 Premiere Pro よくばり活用事典 パソコン、ソフト『After Effect』『Premiere』、ヘッドフォン、マウス							
担当者 の実務 経験	音響、映像制作							
【学修内容】 科目のねらい（目的） 映像業界で使用頻度の高いソフト“After Effect”“Premiere”の技術習得が必須となるため、その活用能力を身につける。一年次には基礎知識を理解し、簡単な映像作品を制作し基礎技術を習得する								
【授業計画】 コマシラバス（前 期）					コマシラバス（後 期）			
1	Premiere AfterEffects とは			1	After Effects 基本エフェクト①			
2	Premiere インターフェース説明			2	After Effects 基本エフェクト②			
3	Premiere 編集			3	After Effects 作品制作			
4	Premiere タイトル作成			4	After Effects 作品制作			
5	Premiere エフェクト			5	After Effects 作品制作			
6	Premiere 作品制作			6	After Effects 作品制作			
7	Premiere 作品制作			7	After Effects 作品制作			
8	Premiere 作品制作			8	After Effects 作品制作			
9	Premiere 作品制作			9	After Effects 作品制作			
10	Premiere 作品制作			10	AfterEffects と Premiere の連携			
11	After Effects インターフェース説明			11	AfterEffects と Premiere の連携			
12	After Effects 基本操作①			12	AfterEffects と Premiere の連携			
13	After Effects 基本操作②			13	AfterEffects と Premiere の連携			
14	After Effects 基本アニメーション①			14	AfterEffects と Premiere の連携			
15	After Effects 基本アニメーション② +前期期末試験			15	AfterEffects と Premiere の連携+学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)	プロジェクターを使用し、教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。 また確認として課題の作成及び提出を行い、理解度をはかる。 クラウドサービスを使い質問などを受け付けながら進める。							
到達目標	動画編集、CG アニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。動画編集の基本操作ができるようにする。 作品制作を通して、基本的なCG制作力が習得できる。							
成績評価の 方法と基準	・定期考査及び課題提出：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外 に必要な学修	自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。							
履修に当たっ ての留意点	PCはAdobe Premiere Pro と AfterEffects の推奨仕様スペック以上を使用する。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	編集Ⅱ		英文名	Editing II				2-6
担当者	浅沼 範行		実務経験の有無	有	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	通年	前期：4時間（回数：15回）	後期：4時間（回数：15回）	授業時数	120時間			
教材 教具	パソコン、AfterEffects、Premiere、ヘッドフォン、マウス							
担当者 の実務 経験	音響、映像制作							
【学修内容】科目のねらい（目的） 将来映像業界で活用できる能力を身に付ける。 二年次には、一年次に学んだ技術と知識を応用し、さらに発展した技術を使いオリジナルの映像作品を制作する。								
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）				
1	AfterEffects 昨年度の復習			1	AfterEffects エフェクトを使う			
2	AfterEffects 2D アニメーション			2	AfterEffects エフェクトを使う			
3	AfterEffects 2D アニメーション			3	AfterEffects エフェクトを使う			
4	AfterEffects 3D アニメーション			4	AfterEffects エフェクトを使う			
5	AfterEffects 3D アニメーション			5	AfterEffects エフェクトを使う			
6	AfterEffects 3D アニメーション			6	AfterEffects エフェクトを使う			
7	AfterEffects 3D アニメーション			7	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
8	AfterEffects 3D アニメーション			8	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
9	AfterEffects 3D アニメーション			9	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
10	AfterEffects 3D アニメーション			10	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
11	AfterEffects 3D アニメーション			11	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
12	AfterEffects 3D アニメーション			12	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
13	AfterEffects 3D アニメーション			13	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
14	AfterEffects Photoshop と連携			14	AfterEffects Premiere と Premiere との連携			
15	AfterEffects Photoshop と連携+前期期末試験			15	AfterEffects Premiere と Premiere との連携 +学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)	教員の指示に合わせて各自がPCで作業を進めていく。また確認として、課題制作及び提出により理解度をはかる。 クラウドサービスを使い、質問などを受け付けながら進める。							
到達目標	動画編集、3D アニメーションを理解し、幅広く映像業界で役立つ技術の習得を目標とする。繰り返し作品制作を行うことでCG制作に慣れ確実に使用方法を習得する。 表現したい技術を探求して、オリジナル作品を作成する。							
成績評価の方法と基準	・定期考査及び課題提出：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。							
授業時間以外に必要な学修	自宅学習で授業の復習をして、ソフトウェアの操作が身につくよう心掛ける。							
履修に当たっての留意点								

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	電気応用	英文名	Electrical applications				1-9
担当者	信平・秋山・難波		実務経験の有無	有	選択必修	必須	科目区分 専門科目 実習
開講期	後期	前期：時間（回数：回）	後期：8時間（回数：11回） （10月1日～12月12日の11週分+補習2コマ）			授業時数	90時間
教材 教具	第二種電気工事士技能試験候補問題の解説、工具セット						
担当者の実務 経験	秋山 俊朗：電設資材卸販売会社（営業）3年5ヶ月、電気工事会社（施工及び施工管理）3年7ヶ月 県立工業高等学校（電気科教諭）33年 信平 幸一：県立工業高等学校（電気科教諭） 難波：実務経験なし						
【学修内容】科目のねらい（目的） 第二種電気工事士の技能試験に合格するために必要な知識と技術の習得。							
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）			
1			1	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			
2			2	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			
3			3	第二種電気工事士筆記試験の答練と解説			
4			4	技能試験の基本作業			
5			5	候補問題による電気工事実習			
6			6	候補問題による電気工事実習			
7			7	候補問題による電気工事実習			
8			8	候補問題による電気工事実習			
9			9	候補問題による電気工事実習			
10			10	候補問題による電気工事実習			
11			11	候補問題による電気工事実習			
12			12	※12月14日(土)もしくは15日(日)の技能試験日以降授業無し			
13		13					
14		14					
15		15					
16			16				
授業方法 (授業の進め方)	技能試験対策として、候補問題により電気工事実習を行う。						
到達目標	第二種電気工事士(下期)の技能試験に合格する。						
成績評価の 方法と基準	・実技試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。						
授業時間以外に 必要な学修	過去問題の学習、配線図の学習。						
履修に当たって の留意点	国家資格合格を目指して積極的に取り組むよう指導する。						

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	卒業制作		英文名	Graduation production				2-7
担当者	難波・横内・浅沼		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	専門科目 実習
開講期	後期	前期	時間(回数)	後期：12時間(回数：15回)			授業時数	180時間
教材 教具	パソコン、AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubase、プリント							
【学修内容】科目のねらい(目的)								
作品制作をすることで、物作りに求められる撮影技術と編集技術を追求し、深める。								
【授業計画】 コマシラバス(前期)				コマシラバス(後期)				
1	/			1	概要説明、資料配布			
2				2	作品制作(カット割)			
3				3	作品制作(撮影スケジュール・ロケハン)			
4				4	作品制作(撮影)			
5				5	作品制作(撮影)			
6				6	作品制作(編集)			
7				7	作品制作(編集)			
8				8	完成作品の視聴及び修正(追加撮影及び編集)			
9				9	完成作品の視聴及び修正(追加撮影及び編集)			
10				10	完成作品の視聴及び修正(追加撮影及び編集)			
11				11	完成作品の視聴及び修正(追加撮影及び編集)			
12				12	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
13				13	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
14				14	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
15				15	最終調整及び完成作品の視聴、微調整			
授業方法 (授業の進め方)	卒業制作では、編集の授業で習得したソフトの技術を活かして個人制作を行う。冬期休暇に入る前に、各自の作品を視聴し、調整・修正箇所を共有し、さらに完成度を高めるべく、調整を繰り返しながら作品完成を目指していく。							
到達目標	授業で学んだソフトを活かして作品を完成させる。 卒業制作発表会にて、各自の作品を上映する。							
成績評価の方法と基準	授業態度点、課題点(作品の評価)、出席点 以上の項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※中間提出、最終提出など決められた期限内に提出できない場合は不認定(D評価)となる。							
授業時間以外に必要な学修	AfterEffect、Premire、Photoshop、Cubaseに触れる時間を自宅で持ち、自ら理解を深めるよう心掛ける。各自が必要なことを、自らの意思でメモにとる習慣をつける必要がある。							
履修に当たっての留意点	欠席が多い場合は、授業評価に大きな影響が出るため注意すること。							

科目名	ビジネス教養		英文名	Business Skills				1-10
担当者	難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目
開講期	通年	前期：1時間(回数：15回)		後期：1時間(回数：15回)			授業時数	30時間
教材 教具	2025年度版 ドリル式 一般常識問題集, 2025年度版 ドリル式 SPI問題集							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい(目的) 《前期》就職試験に向けた一般常識問題を学ぶ 《後期》就職試験に向けたSPI問題を学ぶ								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス(前期)					コマシラバス(後期)			
1	1 日本国憲法と基本的人権 /21 漢字の読み・書き			1	SPI:濃度			
2	2 国会の仕組み・内閣 /22 類義語・対義語			2	SPI:速さ・距離・時間			
3	3 選挙制度・政党 /23 四字熟語			3	SPI:ものの値段と個数			
4	4 裁判所 /24 ことわざ・慣用句・格言・名言			4	SPI:定価・売価・利益			
5	5 国際連合と国際機関 /25 構文・熟語			5	SPI:割合と値段			
6	12 式の基本公式			6	SPI:仕事算			
7	13 方程式・不等式			7	SPI:表の読み取り			
8	14 平面図形・空間図形			8	SPI:資料の読み取り			
9	15 文章題「濃度・速さ」			9	SPI:順列・組み合わせ			
10	16 関数			10	SPI:確率のとらえ方			
11	29 日本地理			11	SPI:集合			
12	30 世界地理			12	SPI:推論			
13	31 日本史			13	SPI:ものの流れと比率			
14	32 世界史			14	SPI:ブラックボックス			
15	前期期末試験			15	学年末試験			
授業方法 (授業の進め方)		《前期》一般常識問題集を使用し、解き方を学びながら練習問題を繰り返し解く。 《後期》SPI問題集を使用し、解き方を学びながら練習問題を繰り返し解く。 授業の終了時には確認試験を行う。						
到達目標		《前期》就職試験に向け一般常識問題を含めた基礎学力を高める。 《後期》就職試験で必要となる一般常識問題、SPI問題の出題傾向を掴む。						
成績評価の方法と基準		・定期考査試験：60% ・出席率：20% ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定(D評価)となる。						
授業時間以外に必要な学修		授業予定にあわせて、練習問題の反復による予習・復習を心掛けること 授業で行った問題の復習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。						
履修に当たっての留意点		授業中に実施する小テストの点、及び出席点を評価に反映させる。						

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	一般教養		英文名	Liberal Arts				2-8
担当者	難波・横内		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目
開講期	通年	前期：1時間（回数：15回）		後期：1時間（回数：15回）			授業時数	30時間
教材 教具	プリント							
<b>【学修内容】</b> 科目のねらい（目的） 就職試験で出題頻度の高い、SPIと一般常識問題に繰り返し触れることで、試験問題に慣れることを目的とする。								
<b>【授業計画】</b> コマシラバス（前期）					コマシラバス（後期）			
1	適性検査対策①			1	適性検査対策③			
2	適性検査対策②			2	適性検査対策④			
3	教養漢字対策			3	教養漢字対策			
4	教養数学対策			4	教養数学対策			
5	教養英語対策			5	教養英語対策			
6	教養一般常識対策①			6	教養一般常識対策④			
7	教養一般常識対策②			7	教養一般常識対策⑤			
8	教養一般常識対策③			8	教養一般常識対策⑥			
9	SPI対策（数学）①			9	SPI対策（数学）⑥			
10	SPI対策（非言語）②			10	SPI対策（非言語）⑦			
11	SPI対策（非言語）③			11	SPI対策（非言語）⑧			
12	SPI対策（言語）④			12	SPI対策（言語）⑨			
13	SPI対策（言語）⑤			13	SPI対策（言語）⑩			
14	前期末試験対策			14	学年末試験対策			
15	前期末試験対策			15	学年末試験対策			
16	前期期末試験			16	学年末試験			
授業方法 （授業の進め方）	配布プリントの問題を繰り返し解き、定期的に確認試験を実施する。							
到達目標	就職試験で必要となるSPIと一般常識問題に触れ問題の出題形式に慣れる。また、国語、数学、英語、時事問題と幅広く触れ、就職試験で求められる基準に達する力を養う。							
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定(D評価)となる。							
授業時間以外に必要な学修	授業で行った問題の復習を自宅で行い、確実な習得を目指すこと。							
履修に当たっての留意点	授業中に実施する小テストの点、及び出席点を評価に反映させる。							

※授業の1単位時間は45分とする

科目名	ビジネスマナー		英文名	Business manner				1-11	
担当者	野中 晶子		実務経験の有無	無	選択必修	必修	科目区分	一般科目	
開講期	前期	前期：2時間（回数：15回）						授業時数	30時間
教材 教具	プリント、筆記用具								
担当者の実務 経験	司会・マナー講師など								
<p>【学修内容】科目のねらい（目的）          専門学校で学ぶのは、自分の可能性を試すことができる技術を習得するためである。技術の習得には努力と根気が必要であるがその根底を支えるのがコミュニケーション能力である。          自分の居場所をしっかりと作るためのコミュニケーション能力の必要性を理解することを目的とする。</p>									
【授業計画】 コマシラバス（前期）				コマシラバス（後期）					
1	コミュニケーション能力の必要性について・自己紹介			1					
2	第一印象についてI			2					
3	標準音声について			3					
4	挨拶の必要性和効用について			4					
5	ルールとマナーについて・価値観の違いを考える			5					
6	安心感を与える聞き方について			6					
7	敬語の心を知る			7					
8	人間関係を良くする5か条について			8					
9	執務マナーQ&A			9					
10	電話応対について			10					
11	仕事の流れについて			11					
12	面接における立ち居振る舞いについて			12					
13	こんなときどうする・社会人編			13					
14	情報収集のための聞き方			14					
15	前期末試験・解説			15					
授業方法 (授業の進め方)	その都度テーマを設けグループワークを用い、自分たちで考え理解し実践に結びつけるようにする。								
到達目標	社会人にとってコミュニケーションがいかに大切か、そしてそのコミュニケーションは自分からの働きかけが必要であることを理解し実践できること。								
成績評価の方法と基準	・定期考査試験：60%    ・出席率：20%    ・授業に取り組む姿勢：20% 以上3項目を合計し、評価点を100点法で算出し、60点以上を認定とする。 ※定期考査にて59点以下の場合または欠席率が30%を超えた場合は、不認定（D評価）となる。								
授業時間以外に必要な学修	普段の生活の中で、自分からの働きかけを意識し実践する。 言葉づかいは日頃から使い慣れるよう心掛ける。								
履修に当たっての留意点	チームワークを重んじ、周りの状況を判断できているかどうか、積極的に取り組む姿勢であるかどうかなど、平素の行動も評価対象である。								